

平成 27 年度八王子市青少年問題協議会

第 2 回検討会 会議録

名称： 平成 27 年度八王子市青少年問題協議会第 2 回検討会

日時： 平成 27 年 11 月 27 日（金）午前 10 時～12 時

場所： 八王子市役所本庁舎 8 階 802 会議室

次第

- 1 挨拶
- 2 委員紹介
- 3 第 1 回検討会会議録について（確認）
- 4 八王子市青少年健全育成基本方針平成 28 年度重点目標について
- 5 情報提供
 - (1) 最近の青少年の非行情勢について
 - (2) 中学校 PTA 連合会 パワーアップ研修について
 - (3) 「夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の取組結果について
 - (4) いちよう祭りにおける薬物乱用防止啓発活動について
 - (5) その他

【出席】

八王子市青少年対策地区委員会連絡会代表	関口 眞吾	委員
八王子地区保護司会代表	大竹 通夫	委員
都立高等学校校長会代表	平野 篤士	委員
八王子市内私立中学高等学校校長代表	原田 泰宏	委員
八王子市立中学校長会代表	清水 和彦	委員
八王子市立小学校長会代表	春田 道宏	委員
八王子市立中学校PTA連合会代表	加地 弘子	委員
八王子市立小学校PTA連合会代表	秋間 勝仁	委員
八王子市青少年育成団体連絡協議会代表	立川 富美代	委員
八王子警察署生活安全課少年第一係	篠原 健志	委員
高尾警察署生活安全課長	鶴我 能史	委員
高尾警察署生活安全課少年第一係	村上 享史	委員
南大沢警察署生活安全課少年第一係	後藤 成	委員
八王子市健康部生活衛生課長	山野井 寛之	委員
八王子市生活安全部防犯課長	宮木 高一	委員
八王子市子ども家庭部児童青少年課長	佐藤 晴久	委員 座長

出席 16 名

(事務局) 子ども家庭部児童青少年課

中山、小池、松日樂、若林

【配布資料】

- (1) 平成 27 年度八王子市青少年問題協議会第 2 回検討会 次第及び委員名簿
- (2) 平成 27 年度 青少年問題協議会第 1 回検討会 会議録 (資料 1)
- (3) 青少年健全育成基本方針 平成 28 年度重点目標リーフレット文案
作成にあたって (資料 2)
- (4) 青少年健全育成基本方針 平成 28 年度重点目標リーフレット (案) (資料 3)
- (5) 平成 27 年度 子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦 取組結果 (資料 4)

【議事要点】

1. 挨拶

児童青少年課長から挨拶

2. 委員紹介

事務局から、新委員2名を紹介

高尾警察署生活安全課長 鶴我能史委員、南大沢警察署生活安全課少年第一係長 後藤成委員から挨拶

3. 第1回検討会会議録について（確認）

資料1に基づき事務局から会議録の内容について確認

→委員からの意見等なし

第1回検討会 会議録を確定

4. 八王子市青少年健全育成基本方針平成28年度重点目標について

資料2、3に基づき事務局から説明

○「総論」について

【関口委員】

大変良くできていると思います。

【佐藤晴久委員】

読みやすいように職員の実話なども入れています。

【春田委員】

書き出しの「あの言葉づかい、いい子ぶっているよね」、「自慢話が多くてちょっとムカつかないか？」はすでに攻撃的な言葉であり、「受け止め方が人それぞれである」と表現するレベルや些細な誤解やすれ違いが生じる程度の言葉ではないと感じる。学校の立場としては、こうした表現や言葉にならないように子どもを教育し、家庭と協力している。誤解につながるような表現の例とするのであれば、「あの子の言葉づかい気になるよね」など少し柔らかい形にしてはどうか。また、「自慢話が多いような気がしない？」といった言い方にするとどんどんネットの中で炎上していく様子が目に浮かぶと思う。記載されている会話のレベルはすでに炎上している状態である。

【事務局】

会話を始めに出すことで少し子どもたちの状況がわかりやすい文章にしたいと思い、こうした言葉を入れた。

【春田委員】

その工夫や導入は良いと思う。

【事務局】

ご意見の通り、確かにすでに悪意が含まれていると感じる。最初は何気ない言葉がエス

カレートしていくという状況を示したいので、頂いた提案を参考に修正していく。

【佐藤晴久委員】

「つながり、ひろがる 思いやりの心」の学校の取組紹介において学校名を出していることについてはどうか。

【春田委員】

学校が了解していれば、学校名が表記されてもいいのではないかな。

今後も継続して色々な学校の取組を取り上げていくのか。

【事務局】

リーフレットに掲載する内容構成は第 1 回の検討会で提案し決めていく。一昨年から児童青少年課で「思いやりの心の育み」に関する取組について照会を全校にして、多くの回答をいただいている。今後もその中の良い取組をこうしたリーフレットで紹介していきたいと考えている。

○「1. ほめよう、我が子の日々の小さな積み重ね」について

【宮木委員】

母親がエプロンを着けて子どもがお手伝いしているイラストや父親と男の子がマラソンをしているイラストは男女共同参画の視点から見るとの役割の固定化と言われてしまうのではないかな。

【大竹委員】

その通りではあるが、温かい家族のイメージとして捉えればこれで良い。母子家庭はどうするかなど全てに対し課題はないかと考えていくとイラストを選ぶことが難しくなってしまう。絵をイメージとして考えれば、温かい家庭の様子が伝わりやすい。こうした捉えで良いのではないかな。これに代わるものがあるかというとなかなか見つからないのではないかな。

【事務局】

事務局もそうした点は留意しながらイラストを探しているが、限られたイラストの中から探す難しさはある。大人に向けたリーフレットであるが、小・中学生対象に配布するためイラストがあった方が書いてある内容を補完する効果もある。また、なるべく文字ばかりにならない方が読みやすいなど工夫している。

【関口委員】

できれば、イラストによってあまり画質の差が出ないように統一できたら見やすいかなと思う。

「我が子への小さな喜びを伝えそびれていませんか」などは私も実感していることである。すばらしい文章が書かれていて良いと思う。

レイアウトに関する点として、「今日は家族そろっていただきます！」のタイトルの下の空白を埋めた方が良い。また、チェックリストとの間に線などを引いた方が内容の区切りがわかりやすい。

【佐藤晴久委員】

「今日は家族そろっていただきます！」については、母子家庭であるなど、なかなか家族そろって食事はできない状況もあると思いますが、学校としてはどうか。

【春田委員】

家族で食事をすることは大切であるため、仕事が忙しくても週に1回は家族で食事をするなど意識を持っていただけたらと思う。

○「2. 一緒に考えよう！ どうして載せるの？ その言葉、その写真、本当に載せていいのかな？」について

【関口委員】

タイトルは「一緒に考えよう！」と行動への呼びかけがあって良い。文字の大きさが他のタイトルより小さいので、大きさを1番目の行動指針と合わせてもう少し大きくすることはできないか。そのためには右の絵を小さくしても構わないと思う。また、「一緒に考えよう！ 本当に載せていいのかな？」がテーマのメイン部分であると思うので、「どうして載せるの？」を小さくするなど工夫してはどうか。

【宮木委員】

「どうして載せるの？」を取って「一緒に考えよう！ 本当に載せていいのかな？ その言葉・その写真」としてはどうか。

【佐藤晴久委員】

異論なければ、提案のとおり変更したい。

→委員からの異論なし。

提案のとおりタイトルを「一緒に考えよう！ 本当に載せていいのかな？ その言葉・その写真」に変更する。

【加地委員】

毎年、リーフレットは身近に感じるわかりやすい文面で作られていて良いと思う。前回は提案したが、「SNS とは…」の箇所の「Facebook」と「LINE」にカナ表示をつけた方がより良いと思う。誹謗中傷にもふりがながあり、読み易い文章になっているので、読み仮名を付けていただけたらと思う。

【立川委員】

英語でなくカタカナ表記の方が良いのではないかと。文字数が多くなってしまうようであれば、イラストを小さくしても良いと思う。

【清水委員】

「経験ある大人には、こうした時にひとまず SNS から離れて、考え込みすぎないように体でも動かしてみようといった「知恵」があります。」とあるが、これは知恵なのか。

【事務局】

経験により身についた一つの知恵であると考え。大人でも気になることがあればインターネットなどで調べ過ぎ、悪い情報に不安になるということはある。しかし、大人はこの様に、不安に思うことを考えすぎると負の連鎖になってしまうこともあるので、そこから一度離れ誰かと話すなどして気分転換してみようと切り換える術を持っている。一つの

ことばかりに集中しすぎず、違う発想や考え方でプラス思考に変えられるというのは、経験による一つの知恵でもあるということを事務局では検討した。

【清水委員】

つまり、ここに書いてある知恵というのは、広義の意味の知恵ということか。ネット依存が子どもたちのストレス解消となってしまっているのだから、例えば、別の方法でのストレス解消を教えるなどいろいろな方法がある中で知恵という言葉を使っているという解釈で良いか。

【事務局】

その意向である。知恵についてもすべてを説明しようとする紙面に収まりきれないが、大人が経験則により持つ「知恵」については書くべきだと考えた。こうした中で、例えば3番目の行動指針にもつながるのだが、子ども達が地域のお祭りやスポーツなど SNS 以外にも何かほかに熱中できるものに関心を持てるようにしてあげられれば、SNS でのストレス発散に費やす時間も無くなるということも考えた。また、人生経験の少ない子どもたちにとって SNS は、はまっていってしまう可能性が高い世界でもあるということを2番目で表現することを考えた。

まずは「大人が学ぼう」と呼びかけているのは、それを機に子どもと話す接点を作ることによって子どもにこうした知恵を教えるあげたり、子ども同士でいろんなことをさせる中で大人が経験により持っている生きるための術、知恵を伝えていってもらいたいという意味を込めている。

【清水委員】

知恵の代わりに言葉を考えるととなると難しい。

【佐藤晴久委員】

ここの文章は「経験ある大人には」から始まっているが、入れ替えて「経験に基づく知恵が大人にはあります。」とすればよりわかりやすい文章となるのではないか。

【清水委員】

もう1つ気になる箇所がある。「SNS」の説明文についてだが、「Facebook」と「LINE」などが SNS か。SNS はソーシャル・ネットワーク・サービス、つまり機能であるため、「Facebook」と「LINE」であるとすると正しくないのではないか。

【事務局】

事務局では、限られた紙面でよりわかり易くすることを意識してこの二つを多くの人を知っているアプリケーションの代表格として示した。確かに SNS がこの2つのアプリケーションではないので、修正が必要である。

【清水委員】

「Facebook」と「LINE」だけではないので「例えば」と付けてはどうか。ソーシャル・ネットワーク・サービスと入れると長くなってしまい、短い文章で説明することはなかなか難しい。

【関口委員】

SNS についてもっと知りたい人はこのリーフレットをきっかけに調べたら良いと思う。

「知恵」は総論に出てくるキーワードの1つであるから、記載してほしい。総論の中で「勇気」「知恵」「思いやり」がキーワードとして書かれている。そのため、1番目の文案

に出てくる勇気にも「」を付けた方が良い。

【春田委員】

「SNS が子どもたちの生活の一部となっている今」という表現が気になる。小学校では、入学式の後や全学年の保護者会の時に「本当に子どもにスマホを持たせますか」と問いかけをし、保護者に考えてもらうよう働きかけている。iPhone や iPad など知られている Apple 社の創設者であるスティーブ・ジョブズ氏は、子どもにとって害となることをよく知っていたので、自分の子どもたちがデジタル機器に触れる時間を厳しく制限していた。様々な問題が発生する中、スマホの所持については、市の条例で規制することも検討してほしいぐらいである。「渡したスマホに子守をさせていませんか」という言葉を私は保護者と話すときに使っています。この部分を根底から覆すのは難しいと思うが、小・中学生、特に小学生も対象であるとする「生活の一部となっている」という表現は、今や「持たせることが当たり前なのだ」と思われることがあるのではないかと私は懸念する。

【関口委員】

小学生が所持することが早いというのは私もそう思う。たしかに「生活の一部」というのは言い過ぎかもしれない。例えば、「子どもたちの生活に影響を与えつつある今」などはどうか。

【事務局】

所持の比率の増加、低年齢化は現状ではあるが、その表現として、「所持が前提」ではないということがくみ取れるような文章にするよう工夫していく。

【清水委員】

表現としては「なりつつある」なども良い。

○「3. 親子で参加、見つけよう！ 地域のつながり・家族の絆」について

【加地委員】

「青少年対策地区委員会や子ども会」と記載がありますが、町会が子ども会をまとめている地区もある。夏祭りや餅つき大会にしても町会を含めて地域で活動しているので、「町会」も記載してはどうか。

【立川委員】

青少年の育成団体は他にもたくさんあるため、「子ども会」だけが表現されているのは少し気になる。「子ども会など」ではなくて、もう少し大きな括りでの表現はないかと考えている。

【事務局】

青少年健全育成団体は確かにボーイスカウト・ガールスカウト含め多くあるが、「青少年の健全育成団体」でまとめてしまうとわかりにくさもあり、具体例として挙げている。団体への加入数などを考慮し、全中学校区を対象とし活動している青少年対策地区委員会と地域の市民力による健全育成活動を行っている団体の中では加入している子どもたちの総数が多い、子ども会を代表格として例示させていただいている。

【大竹委員】

「など」と記載されているので、大きく捉えて解釈をしてはどうか。全部書き出すことはできない。

【関口委員】

青少年対策地区委員会を挙げているのは、私としてはありがたい。青少対は地域の中で子どもたちに関わる市民団体が集まって構成されている会でもある。

「地域の団体など」と入れるか、もう少し具体的な表現が良いか。地域という言葉があった方がよいと思う。

【大竹委員】

地域団体だけとは限らない。警察も剣道や柔道を子どもたちに教えているし、消防署も子どもたちに向けたイベントを行っている。様々な機関・団体がある。

【立川委員】

子どもたちの健やかな成長を願うのはどの青少年健全育成団体も同じである。

【春田委員】

少し文章が長くなるが「青少年対策地区委員会や子ども会など、それぞれの地域で子どもたちの健やかな成長を応援している団体が」とするのはどうか。

【清水委員】

季節行事も PTA や多くの団体が実施しているが、どのような団体か具体的なイメージができるよう挙げているのがこの二つの団体。しかし、具体的に書くと2つだけではないとの議論となる。特異な団体があれば良いが、青少年の健全育成はそれぞれの団体で実施している。

【事務局】

地域の「市民力」による活動を知ってほしいということもあり、団体の固有名詞を事例として挙げた方がわかりやすいのではと考えた。

【大竹委員】

各団体それぞれが活動しているが、「多くの団体」という一言でまとめてしまうとインパクトがなく、わかりにくくなる。子どもたちに町会など地域に根差した地縁の団体で活動し、地域に密着してほしいという思いもある。インパクト、わかりやすさの観点からは今の案が良いと思う。ほかに表現があればいいが、言葉の印象として皆で活動している団体があるということが伝われば、これでも良いと思う。

【春田委員】

子ども会は市内全域にあるのか。

【事務局】

みなみ野地区には子ども会がなく、市では加入を促進するために工科大での子ども会イベントを支援した。子どもの健全育成という側面だけではなく、子どもは地域をつなぎ、地域のコミュニティの発展に資する大切な存在であるため、地域コミュニティの活性化という大局的な目標からも町会や子ども会などに子どもたちが参加して様々な活動・体験をしてもらいたいという考え方が市としてはある。

【春田委員】

子ども会は主に小学校。青少年対策地区委員会は市内全域にあり、町会なども一体となっていて、広い括りとしては説得力がある。

【佐藤晴久委員】

頂いたご意見を参考に事務局で再検討していく。

○「平成 27 年度 振り返りチェックリスト」について

【関口委員】

1つ1つ良くできていると感じる。お母さん、お父さんに 100 点を取ってもらえたらと思うチェックリストである。

【立川委員】

呼びかけが上の吹き出しは「お母さん、お父さん」から始まり、下の吹き出しは「お父さん、お母さん」と順番が逆になっているのには、何か意図があるのか。

【事務局】

事務局で意識して決めたものではない。

【大竹委員】

このままの順序の方が、平等感があって良い。

【春田委員】

リーフレットを開いた時に、この吹き出しの中を太字にした方が目に留まると思う。

○その他意見

【清水委員】

リーフレットで書かれている内容は平成 14 年の「次代を担う青少年について考える有識者会議」の国民の皆さんへの報告書の内容とつながっている。参考になると思うので報告書をお渡しする。

→その他、委員から特に意見等なし。**検討会としてリーフレット内容について了承。ただし、指摘箇所については、修正し事務局が次回提案することとする。**

6. 情報提供

(1) 最近の青少年の非行情勢について

八王子警察署生活安全課第一係長 篠原委員から口頭説明

【篠原委員】

八王子市内三警察署の少年犯罪の検挙状況について報告する。平成 27 年の 1 月～10 月の検挙件数は 159 件。平成 26 年の同時期は 218 件であったので、減少傾向にある。少年犯罪の内訳としては窃盗が 6 割以上で、万引きが 1 番多く続いて自転車盗など。窃盗の次に多いのは自転車などの占有離脱物横領。その他の検挙状況としては暴行・傷害、軽犯罪法違反、迷惑防止条例違反などがある。

万引きの動機や犯行形態は千差万別である。一人でやる場合もあればグループで役割を決めて計画的にやる場合もある。お金を持っていても万引きをする少年もいる。また、受け子として振り込め詐欺に加担する少年も急増している。遊ぶ金ほしさや犯罪とわかっていても先輩に誘われて断れずに加担してしまうこともある。

補導件数は平成 27 年の 1 月～10 月は約 750 件、平成 26 年の同時期は 1300 件でありこちらも減少傾向にある。内訳は深夜徘徊が 8 割、続いて喫煙、飲酒、ゲームセンターへの時間外の立ち入りなどである。また、サイバー補導にも警察で積極的に力を入れている。ス

スマートフォンの急速な普及に伴い、掲示板等の利用に起因する性的犯罪に少年が巻き込まれるケースがある。それを防ぐためにインターネット上に援助交際を求めるなど問題のある書き込みを行った少年に対し、警察官が身分を装い交渉をし現場を設定して少年と接触し指導・注意をするサイバー補導も実施している。

少年を取り巻く環境は日々変化しているので、警察としても変化に対応できるようにセーフティ教室などいろいろな施策をとって振り込め詐欺への加担の防止やスマートフォンの使用方法についても保護者を交えて積極的に指導していき、少年の非行防止・被害防止に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いしたい。

【春田委員】

万引きの通報義務はどの程度機能しているのか。

【篠原委員】

全件提出義務はあるが、被害届を出さない場合もある。警察としては少年のためにも被害届を出すよう説得をしている。

【清水委員】

条例を改正し、保護者同伴であれば12時まで青少年も外出していいとする動きがあると聞いた。何とか食い止めたいと感じている。

【佐藤晴久委員】

補導の件数が減少傾向にあるということだが、何か理由はあるのか。

【篠原委員】

地域で声かけなどをしていただいで減ってきているのではないかと思う。スマートフォンなどの影響により外出が減っていることも一つの要因としてあるのではと考えている。そのため、警察からは見えにくくなっているのではないかという懸念もある。

(2) 中学校 PTA 連合会 パワーアップ研修について

八王子市立中学校 P T A 連合会代表 加地委員から口頭説明

【加地委員】

9月19日に北野市民センターホールにおいて中学校 PTA 連合会パワーアップ研修会を実施した。教育委員会、PTA 関係者、先生など約200名の参加があった。廣瀬学校教育部長、佐藤統括指導主事、児童青少年課松日樂主事にも出席いただいた。

講話内容は、合同会社ロジカルキット代表下田太一先生を招き、「携帯は便利であるから心配な道具であること」「子どもたちの成長が第一であること」「携帯時代の子育て方法が問題の原点であること」などの話をしていただいた。講話を通し、今までと違う見方、考え方ができるようになったと感じる。楽しいトークであり、とてもわかりやすい講演であった。

【事務局 松日樂主事】

研修に参加し、ネット時代の子育てにおいて大切だと思った点が2点ある。まず一つ目は「環境」についてである。実体験や失敗体験から学習するという「環境」を意味する。携帯があると困っているときにすぐにアプリ等で簡単に調べ解決できてしまうので、自ら

考えて行動できる環境を大人が子どもに与えることが大切だと感じた。

二つ目としては、「選択」である。現在はネットを見るとあまりにも多くの情報があり、見なくても良いものまで見えてしまう時代である。そうした中で成長過程の子どもたちが情報の選択をしていくことは容易ではない。「知恵のある大人が子どもたちに情報の選択や知識を教えてあげましょう」という話がとても印象に残っている。

今回の重点目標リーフレットの作成にあたってとても参考になった。

(3) 「夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の取組結果について

生活安全部防犯課長 宮木委員から資料4に基づき説明

○資料補足

- ・ 2006年の埼玉県の市営プールで起きた女兒死亡事故をきっかけに翌年からこの取組が始まった。
- ・ 事項報告のあった7件は主に夏休み中も実施している学童保育所における怪我である。
- ・ 「いかのおすしプラス1」の周知を継続的に行っており、夏休み期間以外でも子どもたちの事故や犯罪がないように取り組んでいきたい。

(4) いちよう祭りにおける薬物乱用防止啓発活動について

健康部生活衛生課長 山野井委員から口頭説明

【山野井委員】

いちよう祭り2日目の11月22日(日曜)に中央図書館前でテントを張り啓発活動を実施した。当日は東京都の薬物乱用防止推進指導員、サポーター、保護司会、ガールスカウトの方々にも参加いただき活動した。7月に報告した薬物乱用防止パンフレットや東京都が作成したパンフレットなどを花の種や絆創膏セットと一緒に約三千部を道行く人に薬物乱用の怖さを訴えながら配布した。京都府の小学校6年生の男児が大麻を吸った事件もあったためか道行く人の関心が高く足をとめて話を聞き受け取ってくれた。当日は高尾警察署防犯係の方も一緒に啓発活動を実施した。連携しながら、今後も大勢の方に薬物の怖さを伝えていくことを続けていきたいと思っている。

(5) その他

【加地委員】

平成28年1月30日(土)午後2時から教育センターにおいてフォーラムを開催予定です。生徒と保護者による携帯・スマホのルール作りに向けた討議を行う予定である。各ブロックから二校抽出し、各校より生徒・先生・保護者2～3名の参加をいただく。内容は携帯・スマホの必要性・正しい使い方などを討議する。討議内容は役員会で今後検討していくと共に生徒たちからもどんなことを討議したらいいか意見をもらう。第3回の検討会でまた周知したい。

第3回検討会の開催について

事務局より説明

日時 平成28年1月22日(金) 午前10時～12時 市役所7階701会議室